研究調査報告

亀岡－大津－愛荘－豊川紙芝居調査報告

新垣　夢乃
（非文字資料研究センター　研究協力者）

神奈川大学非文字資料研究センターの「戦時下日本の大衆メディア研究」班では、2018年6月1日から5日の日程で京都府亀岡市、滋賀県大津市、滋賀県愛荘町、愛知県豊川市で現地に残された紙芝居の調査を行った。

今回の調査によって、87点の紙芝居を確認することができた。多くの紙芝居を確認することができたことはもちろんのこと、実際に地域で紙芝居がどのように利用されていたのかについて新しい知見を得られたことは大きな成果であった。以下で今回の調査の内容と確認した紙芝居について大まかに報告する。

1、亀岡市文化資料館（京都府亀岡市）での調査：地域の仏教会による紙芝居

亀岡市文化資料館での調査のきっかけは、亀岡市に隣接する南丹市にある南丹市立文化博物館で亀岡市文化資料館所蔵の紙芝居が展示されたことを知ったことである。そこで、亀岡市文化資料館に紙芝居の所蔵状況確認を行い、その後閲覧申請し、今回閲覧させていただけることとなった。

2020年から放送されるNHK大河ドラマ『麒麟がくる』は明智光秀が主人公ということもあり、明智光秀ゆかりの地である亀岡市には大河ドラマ化決定を祝う横断幕やのぼりが設置されていた。亀岡市文化資料館でも文化資料館ロビー展「明智光秀展」（2018年4月28日～6月3日）が開催されていた。さらには、今回、調査させていただいた6月2日が本能寺の変が発生してからちょうど436年後にあたる日であった（本能寺の変は旧暦の6月2日に発生）。そのため亀岡市文化資料館では前日夜に本能寺の変に関するイベントを開催していた。そのような多忙な状況のなかで、我々を迎え、資料紹介や展示案内を行っていただいた上甲典子氏にはこの場で感謝を述べたい。

写真1　亀岡市文化資料館（森山優氏撮影）

今回、亀岡市文化資料館では12点の紙芝居を確認した。その内容は下記の通りである。

作品名	発行者	発行日
小サイ灯明	日本教育紙芝居協会	1941年
隣組	日本教育紙芝居協会	1941年
コブトリ	全甲社紙芝居刊行会	1941年
翼賛少年	大政翼賛会宣伝部	1941年
蓮月尼	日本教育画劇株式会社	1941年
家	日本教育画劇株式会社	1942年
日本海大海戦	日本教育画劇株式会社	1942年
ブンブク	全甲社紙芝居刊行会	1942年
真珠湾余聞	日本教育画劇株式会社	1943年
月の中のうさぎ	日本教育画劇株式会社	1943年
モモタラウ	日本教育画劇株式会社	1944年
大政翼賛	不明	不明

上甲氏によると亀岡市文化資料館が所蔵する紙芝居は、もともとは地元の新聞販売店と寺院が所蔵していた

ものであるという。なかでも地元の寺院が所蔵していた紙芝居『コブトリ』『蓮月尼』『ブンブク』には「仏教会南桑田郡千代川村組所有」という墨書きがある。また亀岡市文化資料館が刊行した『戦後 70 年、あのときの亀岡 戦争平和展 2015』によると、紙芝居『家』のカバーには「京都府仏教会」の印が押されているという［亀岡市文化資料館編 2015 年：22 頁］。そこからは、戦時中にはこれらの紙芝居が村の寺院によって組織された仏教会が所有し、仏教会に所属する寺院が共同で使用していたという地域における紙芝居利用の実態をうかがうことができる。実際の地域で紙芝居がどのように利用されていたのかを知るうえでこれらの紙芝居は大変貴重なものである。

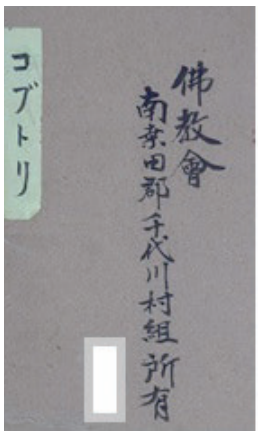

写真２（左）仏教会の墨書き
写真３（右）『戦後 70 年、あのときの亀岡 戦争平和展 2015』の表紙

２、人形劇の図書館（滋賀県大津市）での調査：戦時下の人形劇と紙芝居

亀岡市文化資料館での調査を終え、そこから滋賀県大津市にある人形劇の図書館へと直行した。人形劇の図書館は、劇団「人形劇・トロッコ」を運営し自身も人形使いである潟見英明氏が館長を務める図書館である。

この人形劇の図書館で調査させていただくことになったきっかけは、飯田市人形劇資料調査活用実行委員会が運営する「人形劇図書資料目録 DataBase」により人形劇の図書館が紙芝居関連の資料を所蔵していることを知ったことである。そこで調査に際して、館長の潟見氏に連絡を取り今回所蔵する資料を閲覧させていただけることとなった。

人形劇の図書館へ訪問し、まずは所狭しと並べられた世界各国の人形劇に関する蔵書に圧倒された。これは人形劇に関する資料群としては、国内有数の規模のものである。さらに、この図書館の一角には大量の紙芝居も積まれており、その量にも圧倒された。今回の調査では、その量の多さのため全容を把握することはできなかった。そのため、紙芝居のなかからこれまで確認できていなかったものと、他館で所蔵が確認されているが発行日が異なるものを選び 20 点を閲覧させていただいた。その内容は下記の通りである。

作品名	発行者	発行年
蓮如さま　上	法蔵館:京都	1937年
蓮如さま　下	法蔵館:京都	1937年
骨なし蛸ちやん	ヱバナシ・トーキー社	1937年
雪晴れ	日本教育紙芝居協会	1940年
オサルノラッパ	日本教育紙芝居協会	1940年
噫鈴木先生	日本教育画劇株式会社	1941年
コネコチヤンノオヒガサ	日本教育紙芝居協会	1941年
もの知りお婆さん	大日本画劇株式会社	1941年
科学者ジエンナー	日本教育画劇株式会社	1941年
責任	大日本文化画劇報国会	1941年
手	日本教育画劇株式会社	1941年
鉄道の話	興亞画劇株式会社	1941年以降
南進の英雄角屋七郎兵衛	永田文昌堂	1942年
一本杉	日本教育画劇株式会社	1943年
泣いた赤鬼	日本教育画劇株式会社	1943年
真盛上人	日本教育画劇株式会社	1943年
日本女性の御かゞみ静寛院宮	静寛院宮奉賛会	1944年
戦ひの楯	大日本画劇株式会社	1944年
この麦を見よ	日本教育画劇株式会社	1944年
南方案内	興亞画劇株式会社	1944年

今回の調査では人形劇の図書館が所蔵する紙芝居の全容を把握することができなかった。そのため、今後も

写真４　人形劇の図書館での調査風景

さらに調査を継続する必要がある。

また、潟見氏には戦時下の人形劇についても貴重な情報を教えていただいた。人形劇も紙芝居も、戦時下のメインストリームとは言えないメディアであった点では共通する。しかし、そこから見える視野の違い、さらには自身も人形使いである潟見氏の戦時下における演じ手と作品との距離感についてのお話は大変貴重で有意義なものであった。潟見氏にはこの場で感謝を述べたい。

写真５　琵琶湖の夕景

３、信光寺（滋賀県愛荘町）での調査：地域の寺院による紙芝居

人形劇の図書館での調査の翌日、滋賀県愛荘町にある信光寺（浄土真宗の寺院）にて調査を行った。今回、信光寺で紙芝居を閲覧させていただくこととなったきっかけは、2009 年 9 月 15 日の『中日新聞/CHUNICHI Web』に掲載された「【滋賀】『黄金バット』や『おむすびころりん』愛荘で戦前から現代の紙芝居展」によって愛荘町立愛知川びんてまりの館が戦時中の紙芝居を展示する企画展『紙芝居の世界』を開催していたことを知ったことにある。そこで、当時企画展に関わった愛荘町立愛知川図書館・愛知川びんてまりの館副館長（学芸員）の小川亜希子氏から、実際に紙芝居を所蔵なさっている信光寺の木津順子氏をご紹介いただき、今回紙芝居を閲覧させていただくこととなった。

今回、信光寺では 45 点の紙芝居を確認した。その内容は下記の通りである。

作品名	発行者	発行年
カモトリゴンベイ	全甲社紙芝居刊行会	1935年
トンマナ　トンクマ	全甲社紙芝居刊行会	1936年
チョコレートと兵隊	日本教育紙芝居協会	1936年
蓮如さま　上	法蔵館	1937年
蓮如さま　下	法蔵館	1937年
日本人：支那事変応召美談	平井三郎	1937年
荒鷲：支那事変海軍爆撃隊	平井三郎	1937年
ゲンコツ軍曹	全甲社紙芝居刊行会	1937年
オムスビコロリン	全甲社紙芝居刊行会	1938年
子供招集令	全甲社紙芝居刊行会	1938年
カラスカンベエ	全甲社紙芝居刊行会	1939年
銃後の子供達	日本教育紙芝居協会	1939年
ハンスノ　タカラ	全甲社紙芝居刊行会	1940年
花まつり	全甲社紙芝居刊行会	1940年
日本の眼	本派本願寺内時局奉公事務所内地課	1940年
東亜の夜明けに	時局奉公事務所内地課	1940年
蜘蛛の糸	日本教育画劇	1941年
修行者と羅刹雪山童子物語	日本教育画劇	1941年
コザルノキョクゲイ	日本教育紙芝居協会	1941年
新ちゃんと赤とんぼ	日本教育紙芝居協会	1941年
子宝の春	教育画劇	1941年
太郎熊と次郎熊(前編)	日本教育紙芝居協会	1941年
つづりかた　乾草刈り	日本出版配給株式会社	1941年
熊さん学校　太郎熊・次郎熊後編	日本教育画劇	1942年
小鴨の引越し	画劇報国社	1942年
宣戦	不明	1942年
泣いた赤鬼	日本教育画劇	1942年
真珠湾余聞	日本教育画劇	1942年
不思議な見世物小屋『太郎熊　次郎熊』中篇	日本教育画劇	1942年
親鸞上人　上	野洲組日校連盟　青木正範	1943年
親鸞上人　下	本願寺派児童協会	1943年
頼山陽の母	日本教育画劇	1943年
殊勲甲	大日本画劇	1943年
日本のつばめ	日本教育紙芝居協会	1943年
真鯉緋鯉	日本教育紙芝居協会	1943年
キンタラウノ　ラクカサンブタイ　第二十九集　決戦体制版	全甲社紙芝居刊行会	1944年
イナバノウサギ	日本教育画劇	1944年
ドウブツタイクヮイ	日本教育画劇	1944年
桑と子供と兵隊	大日本画劇	1944年
太陽のない国	本願寺	1945年
オトギ列車	日本教育紙芝居協会	不明
江南の花	不明	不明
金色の蝶	教育画劇	不明

親鸞さま(袋のみ)	不明	不明
万寿姫	平井三郎	不明

小川氏と木津氏によると信光寺が所蔵する紙芝居は、もともとは先代の住職であった木津龍尊氏が実際にお寺で使用していたものであるという。戦後になって木津龍尊氏は、戦時中の反省をこめてこれらの紙芝居を保管しそれが現在まで残ったという。さらには、この木津龍尊氏はカメラが趣味のハイカラな住職で、戦時中は疎開児童を寺院で受け入れて子どもたちの世話に奔走した人物であったという。紙芝居やその来歴などについての情報は、実際に地域のなかで、さらには寺院が、そしてどのような人物が戦時期に紙芝居を演じていたのかを知ることができる貴重なお話であった。今回の調査でお世話になった木津順子氏、小川亜希子氏の両氏にはこの場をかりて感謝を述べたい。

4、砥鹿神社（愛知県豊川市）での調査：地域の神社による紙芝居

信光寺での調査を終え、そこから愛知県豊橋市へと移動し、そこで宿泊した。6月4日は午前中から豊川市にある砥鹿神社にて調査を行った。砥鹿神社は三河国一之宮となっている神社である。今回、砥鹿神社で紙芝居を閲覧させていただくこととなったきっかけは、2017年8月17日のWeb版『東愛知新聞』に掲載された「砥鹿神社特別参拝と紙芝居」から情報を得たことからである。本記事においては、豊川市観光協会が観光スポットを案内するボランティアガイド養成の一環として砥鹿神社が所蔵する紙芝居が披露され、同時に砥鹿神社が戦前の紙芝居を所蔵することが紹介された。そこで、今回、砥鹿神社に連絡を取り所蔵する紙芝居を閲覧させていただいた。その際には、権祢宜の三宅勝晴氏より多大なるご厚意をいただいた。三宅氏にはこの場をかりて感謝を述べたい。

今回、砥鹿神社では10点の紙芝居を確認した。その内容は下記の通りである。

作品名	発行者	発行年
ふしぎの国アリス物語	全甲社紙芝居刊行会	1937年
七匹の小山羊	全甲社紙芝居刊行会	1939年
興亜のしるべ	日本教育紙芝居協会	1940年
カミサマトシロウサギ	日本教育画劇	1941年
みのる秋	大日本神祇会	1941年
建国のわらべ	画劇報国社	1942年
土の英雄	国民画劇	1946年
少年野口英世	大日本画劇	1946年
ウサギのお家	国民画劇	1947年
鳩	日本教育画劇	1950年

三宅氏によると砥鹿神社が所蔵する紙芝居は、もともとは地域の神職会もしくは元の砥鹿神社神職が上演していた物であったという。さらに、砥鹿神社は地域の神職会の事務局を務めていたことから砥鹿神社に残されたものであろうということを教えていただいた。この砥鹿神社が所蔵する紙芝居『七匹の小山羊』には「砥鹿神社々務所」という印、『カミサマトシロウサギ』には「昭和拾七年六月壱五日 一宮村隣保事業組合 一宮村隣保事業組合託児□」という印、『鳩』には「愛知県神社庁宝飯郡支部」という印が押されている。そこからは、これらの紙芝居が郡の神社によって組織された神職会が所有し、郡の神職たちが共同で使用していたという地域における紙芝居利用の実態をうかがうことができる。また、神社は託児所などを併設しており、その託児所でも紙芝居が使用されていたことがうかがえる。

写真6　砥鹿神社（森山優氏撮影）

5、謝辞

今回の調査にあたり、亀岡市文化資料館の大欠哲氏、上甲典子氏、人形劇の図書館の潟見英明氏、愛荘町では愛荘町立愛知川図書館・愛知川びんてまりの館の小川亜希子氏、信光寺の木津順子氏、砥鹿神社の三宅勝晴氏など多くの方々よりご協力を賜りました。厚く御礼を申し上げ、感謝の意を表します。